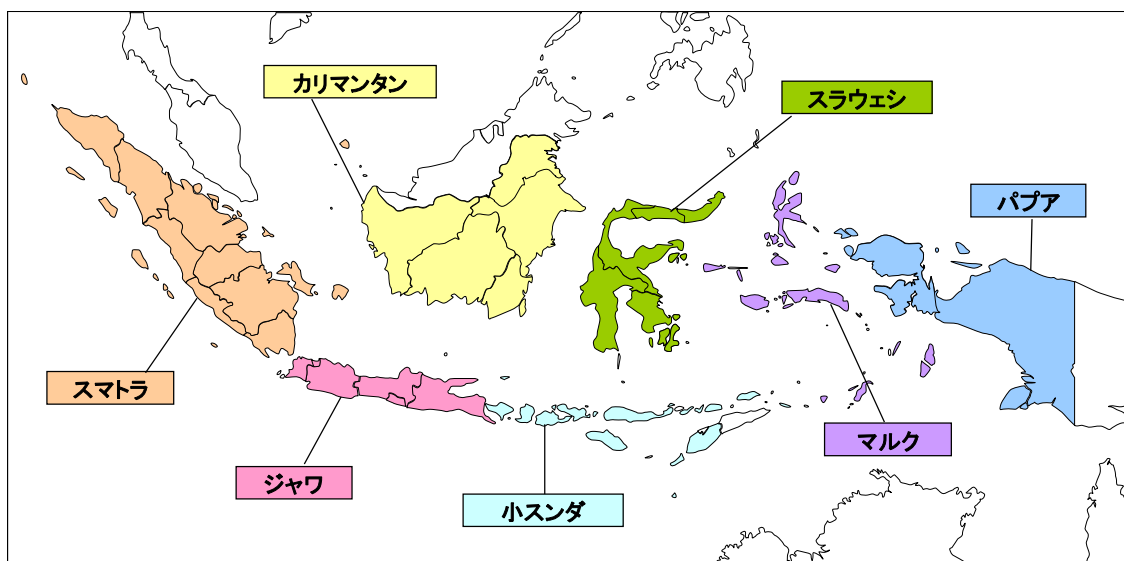


第24章 地域ごとの特徴

1. インドネシアの地域分類

インドネシアは、地理的にはスマトラ、ジャワ、カリマンタン、スラウェシ、ニューギニアの5つの大きな島と、小スンダ、マルクの両諸島から構成される。インドネシアの国土面積は約191万km²（日本の約5倍）であるが、面積では国土の7%の広さしかないジャワに同国人口全体の61%が集中して住んでいる。一方、マルク・パプア、カリマンタンはそれぞれ総面積の26%、29%を占めるが、人口ではそれぞれ3%、7%程度に留まるなど、地域における人口密度の差が非常に大きい（図表24-1）。インドネシアの行政区分は①州（特別州を含め、34ある）、②県・市、③郡・区・村、の3段階で構成されている。特別州として、ジャワ島のジャカルタ首都特別州とジョグジャカルタ特別州の2つが定められている（図表24-2）。なお、本章では、インドネシア統計局の区分に従って記載している。

図表 24-1 インドネシアの地域分類と基本統計（2020年）



	面積		人口		人口密度
	(1,000km ²)	(構成比)	(100万人)	(構成比)	(人/km ²)
全国	1,911	100.0%	270.2	100.0%	141
スマトラ	481	25.2%	58.6	21.7%	122
ジャワ	129	6.8%	151.6	56.1%	1,171
小スンダ	73	3.8%	15.0	5.5%	205
カリマンタン	544	28.5%	16.5	6.1%	30
スラウェシ	189	9.9%	19.9	7.4%	106
マルク・パプア	495	25.9%	8.6	3.2%	17

（出所）インドネシア統計局ウェブサイト、各種資料より作成

図表 24-2 インドネシアの州・特別州一覧

地域	州	州都	
スマトラ	アチェ	Aceh	バンダ・アチェ
	北スマトラ	Sumatera Utara	メダン
	西スマトラ	Sumatera Barat	パダン
	リアウ	Riau	ブカンバル
	ジャンビ	Jambi	ジャンビ
	南スマトラ	Sumatera Selatan	パレンバン
	ブンクル	Bengkulu	ブンクル
	ランプン	Lampung	パンドルランプン
	バンカ・プリトゥン	Kepulauan Bangka Belitung	パンカルピナン
	リアウ諸島	Kepulauan Riau	タンジュンピナン
ジャワ	ジャカルタ首都特別州	DKI Jakarta	ジャカルタ
	西ジャワ	Jawa Barat	バンドン
	中部ジャワ	Jawa Tengah	スマラン
	ジョグジャカルタ特別州	DI Yogyakarta	ジョグジャカルタ
	東ジャワ	Jawa Timur	スラバヤ
	バンテン	Banten	セラシ
小スンダ	バリ	Bali	デンパサール
	西ヌサ・トゥンガラ	Nusa Tenggara Barat	マタラム
	東ヌサ・トゥンガラ	Nusa Tenggara Timur	クーパン
カリマンタン	西カリマンタン	Kalimantan Barat	ポンチアナック
	中部カリマンタン	Kalimantan Tengah	パラカラヤ
	南カリマンタン	Kalimantan Selatan	パンジャルマシン
	東カリマンタン	Kalimantan Timur	サマリダ
	北カリマンタン	Kalimantan Utara	タンジュンセロル
スラウェシ	北スラウェシ	Sulawesi Utara	マナド
	中部スラウェシ	Sulawesi Tengah	パル
	南スラウェシ	Sulawesi Selatan	マカッサル
	南東スラウェシ	Sulawesi Tenggara	ケンダリ
	ゴロンタロ	Gorontalo	ゴロンタロ
	西スラウェシ	Sulawesi Barat	マムジュ
マルク・パプア	マルク	Maluku	アンボン
	北マルク	Maluku Utara	テルナテ
	西パプア	Papua Barat	マノクワリ
	パプア	Papua	ジャヤブラ

(出所) 各種資料より作成

2. 地域別の経済動向

(1) 地域別に見た GDP の構成比

2021年の名目GDPを地域別に見ると、地域ごとの構成比はジャワが57.9%、スマトラが21.7%、カリマンタンが8.3%、スラウェシが6.9%、小スンダが2.8%、マルク・パプアが2.5%となり、経済規模についてはジャワが突出して高い。また、この地域ごとの構成比は2015年以降大きな変化がない。

さらに、図表 24-3 は地域ごと、産業ごとの名目 GDP 構成比をマトリックスに表したものである。これを見ると、インドネシアの名目 GDP 中、ジャワの「第3次産業」(インドネシア名目 GDP に占める構成比 30.2%)、ジャワ、スマトラの「製造業」(それぞれ同 16.2%、4.5%)、スマトラとカリマンタンの「鉱業」(それぞれ同 2.4%)、ジャワとスマトラの「第1次産業」(それぞれ同 4.3%、4.9%) の存在感が高いことが分かる。

図表 24-3 地域別に見た名目 GDP の産業別構成比 (全国=100%)

	全国	スマトラ	ジャワ	小スンダ	カリマンタン	スラウェシ	マルク・バプア
全体	100.0%	21.7%	57.9%	2.8%	8.3%	6.9%	2.5%
第1次産業	12.8%	4.9%	4.3%	0.6%	1.1%	1.6%	0.3%
第2次産業	41.7%	9.4%	23.4%	0.6%	4.6%	2.5%	1.2%
鉱業	7.2%	2.4%	1.0%	0.2%	2.4%	0.6%	0.7%
製造業	23.5%	4.5%	16.2%	0.1%	1.3%	1.1%	0.2%
公益業	0.4%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
電気・ガス	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
水道・リサイクル	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
建設業	10.6%	2.4%	5.9%	0.3%	0.8%	0.9%	0.3%
第3次産業	45.5%	7.4%	30.2%	1.6%	2.5%	2.7%	1.0%
卸売・小売業	14.3%	2.9%	9.2%	0.3%	0.7%	0.8%	0.2%
運輸・倉庫業	3.8%	0.7%	2.2%	0.1%	0.4%	0.3%	0.1%
ホテル・飲食業	3.1%	0.3%	2.4%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%
情報・通信業	4.8%	0.6%	3.5%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%
金融業	4.2%	0.5%	3.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%
不動産業	3.1%	0.6%	2.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%
専門サービス業	1.9%	0.1%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共サービス業	3.8%	0.8%	1.8%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%
教育サービス業	3.6%	0.5%	2.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%
医療・社会福祉活動	1.4%	0.2%	0.8%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%
その他サービス業	1.7%	0.2%	1.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%

(注) インドネシア全国の GDP に占める比率が 2.0%を上回っている産業・地域を黄色、0.2%下回っている。産業・地域は青色でシャドーしている。

(出所) 国家統計局より作成

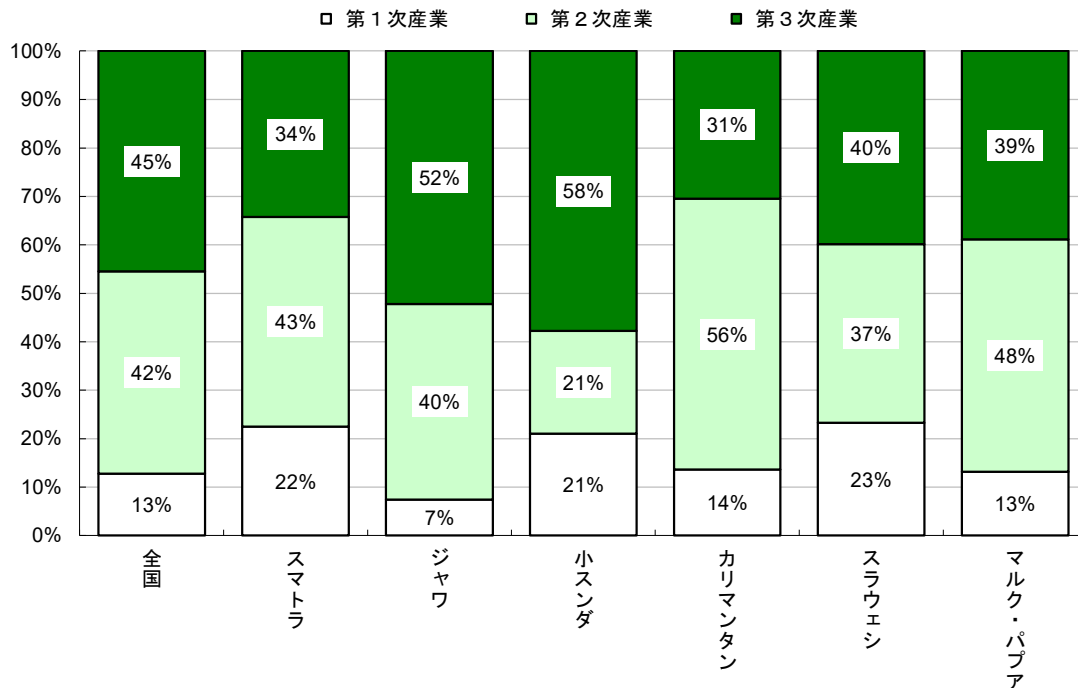
図表 24-4 地域別に見た名目 GDP の産業別構成比（地域＝100%）

	全国	スマトラ	ジャワ	小スンダ	カリマンタン	スラウエシ	マルク・パプア
全体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
第 1 次産業	12.8%	22.5%	7.4%	21.0%	13.7%	23.3%	13.2%
第 2 次産業	41.7%	43.3%	40.4%	21.2%	55.8%	36.9%	48.0%
鉱業	7.2%	10.9%	1.7%	5.9%	29.5%	8.3%	26.3%
製造業	23.5%	20.9%	28.0%	4.6%	16.2%	15.8%	9.2%
公益業	0.4%	0.3%	0.5%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%
電気・ガス	0.3%	0.2%	0.4%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
水道・リサイクル	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
建設業	10.6%	11.3%	10.1%	10.5%	9.9%	12.6%	12.4%
第 3 次産業	45.5%	34.3%	52.2%	57.8%	30.5%	39.8%	38.8%
卸売・小売業	14.3%	13.5%	15.9%	11.2%	9.0%	12.2%	10.0%
運輸・倉庫業	3.8%	3.4%	3.8%	5.2%	4.4%	3.7%	3.7%
ホテル・飲食業	3.1%	1.4%	4.1%	8.3%	1.4%	1.0%	0.7%
情報・通信業	4.8%	2.8%	6.0%	5.6%	2.3%	4.2%	3.2%
金融業	4.2%	2.3%	5.4%	4.4%	2.4%	3.1%	2.1%
不動産業	3.1%	2.8%	3.4%	3.6%	1.5%	2.7%	1.8%
専門サービス業	1.9%	0.5%	3.0%	0.6%	0.3%	0.3%	0.8%
公共サービス業	3.8%	3.7%	3.1%	7.9%	4.0%	5.1%	11.6%
教育サービス業	3.6%	2.2%	4.0%	6.6%	2.9%	4.3%	2.4%
医療・社会福祉活動	1.4%	1.0%	1.3%	2.6%	1.5%	2.2%	1.6%
その他サービス業	1.7%	0.7%	2.2%	1.8%	0.8%	1.2%	0.9%

（注 1）構成比は小数点第 2 位で四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0%にならない。

（注 2）全国の構成比（左列）に対し、1.2 倍以上であれば黄色、0.8 倍以下であれば青色でシャドーしている。

（出所）国家統計局より作成



（出所）国家統計局より作成

(2) 地域別の産業構造の特徴

【スマトラ（2021年名目GDP構成比：21.7%）】

スマトラの特徴は、「第1次産業」の構成比（22.5%）が全国平均（12.8%）よりも高いことである。スマトラではゴム、タバコ、茶などの大規模農業が行われているため「第1次産業」の構成比が高くなっている。「第2次産業」の構成比は43.3%と全国平均（41.7%）とほぼ同水準であるが、「鉱業」の構成比が10.9%と全国平均（7.2%）より高いことが特徴と言える。これは、同地域では、石油、ガスなど天然資源が豊富なためである。

【ジャワ（同：57.9%）】

ジャワの特徴は、「第3次産業」の構成比（52.2%）が全国平均（45.5%）よりも比較的高いことにある。第3次産業内の「ホテル・飲食業」が4.1%（全国平均：3.1%）、「情報・通信業」が6.0%（同：4.8%）、「金融業」が5.4%（同：4.2%）、「専門サービス業」が3.0%（同：1.9%）と、それぞれが全国平均に比較して高くなっている。

なお、ジャワの「第2次産業」の構成比（40.4%）は全国平均（41.7%）をわずかに下回るが、「製造業」の構成比は28.0%と全国平均（23.5%）を上回っている。ジャカルタ首都圏を中心に人口が集中し様々なサービスのニーズがあることに加え、西ジャワ州を中心に製造業が集積していることなどがこれらの数値に反映されているといえよう。

【小スンダ（同：2.8%）】

小スンダの特徴は、「第3次産業」の構成比（57.8%）が全国平均（45.5%）を上回るとともに、第1次産業の構成比（21.0%）も全国平均（12.8%）を大きく上回っていることである。これは「ホテル・飲食業」の構成比（8.3%）が高いことにも示されるように、バリ島などの観光産業が地域経済を牽引しているためである。また、第1次産業の構成比が高いことは、漁業や畜産業、島によっては水耕農作が盛んであることが反映されたものと考えられる。

【カリマンタン（同：8.3%）】

カリマンタンの特徴は、「第2次産業」の構成比（55.8%）が全国平均（41.7%）を大幅に上回っていることである。その要因として、金や鉄などの鉱物資源や石油・ガスなどの天然資源が豊富であり、鉱業が発展していることがその要因と考えられる。

【スラウェシ（同：6.9%）】

スラウェシの特徴は、「第1次産業」の構成比（23.3%）が全国平均（12.8%）を大幅に上回っていることである。その要因として漁業や農業が盛んなことが考えられる。

【マルク・パプア（同：2.5%）】

マルク・パプアの特徴は、「鉱業」の構成比が 26.3%と全国平均（7.2%）を大幅に上回っていることである。これは、カリマンタンと異なり石油・ガスなどの天然資源の開発は盛んではないものの、同地域では金など貴金属を含む鉱業が発達しており、この動きが数値に反映されていると考えられる。

3. 地域別の労働人口と所得水準

2020 年のインドネシアの人口は 2 億 7 千万人超となっている。中国、インド、米国に次いで世界第 4 位の人口を擁し、ASEAN10 カ国合計人口の約 4 割を占める人口大国である。地域別の人口を見ると、ジャワの人口が最多で 1 億 5,159 万人であり、インドネシア全体の 56.1%を占める。次いでスマトラの 5,855 万人（21.7%）、スラウェシの 1,989 万人（7.4%）が続く。

国連の中位推計によると、インドネシアの人口がピークに達するのは 2060 年（約 3 億 2 万人）である。これは、インドネシアは、タイやベトナムなど周辺諸国に比べ、総人口に占める生産年齢人口の割合が高く、豊富な労働力により経済成長に有利となる「人口ボーナス期間」が長く、労働人口（15 歳以上 60 歳未満の人口）が安定的に増加し続ける見込みであるためである。

さらに、人口が集中するジャワ（総人口 1 億 5,159 万人）について州別に見ると、西ジャワ州の人口は 4,827 万人（ジャワの 31.8%）、東ジャワ州の人口は 4,067 万人（同 26.8%）、中部ジャワ州の人口は 3,652 万人（同 24.1%）となっている。

インドネシアに進出する日系企業の多くは、製造業ならば主に西ジャワに、サービス業ならば主にジャカルタ首都特別州に拠点を構えるケースが多いが、これらの地域に企業進出が集中する理由の一つとして、上述のように豊富な労働力が存在することが挙げられよう。現状では、これらの地域では、ワーカーの確保は比較的問題なくできるようである。

図表 24-5 地域別人口（2020年）

		人口（2020年）	
		万人	構成比
全国		27,020	100.0%
スマトラ		5,855	21.7%
アチェ	Aceh	527	2.0%
北スマトラ	Sumatera Utara	1,480	5.5%
西スマトラ	Sumatera Barat	553	2.0%
リアウ	Riau	639	2.4%
ジャンビ	Jambi	355	1.3%
南スマトラ	Sumatera Selatan	847	3.1%
ブンクル	Bengkulu	201	0.7%
ランブン	Lampung	901	3.3%
バンカ・ブリトゥン	Kep. Bangka Belitung	146	0.5%
リアウ諸島	Kepulauan Riau	206	0.8%
ジャワ		15,159	56.1%
ジャカルタ首都特別州	DKI Jakarta	1,056	3.9%
西ジャワ	Jawa Barat	4,827	17.9%
中部ジャワ	Jawa Tengah	3,652	13.5%
ジョグジャカルタ特別州	DI Yogyakarta	367	1.4%
東ジャワ	Jawa Timur	4,067	15.1%
バンテン	Banten	1,190	4.4%
小スンダ		1,497	5.5%
バリ	Bali	432	1.6%
西ヌサ・トゥンガラ	Nusa Tenggara Barat	532	2.0%
東ヌサ・トゥンガラ	Nusa Tenggara Timur	533	2.0%
カリマンタン		1,652	6.1%
西カリマンタン	Kalimantan Barat	541	2.0%
中部カリマンタン	Kalimantan Tengah	267	1.0%
南カリマンタン	Kalimantan Selatan	407	1.5%
東カリマンタン	Kalimantan Timur	367	1.4%
北カリマンタン	Kalimantan Utara	70	0.3%
スラウェシ		1,989	7.4%
北スラウェシ	Sulawesi Utara	262	1.0%
中部スラウェシ	Sulawesi Tengah	299	1.1%
南スラウェシ	Sulawesi Selatan	907	3.4%
南東スラウェシ	Sulawesi Tenggara	262	1.0%
ゴロンタロ	Gorontalo	117	0.4%
西スラウェシ	Sulawesi Barat	142	0.5%
マルク・パプア		856	3.2%
マルク	Maluku	185	0.7%
北マルク	Maluku Utara	128	0.5%
西パプア	Papua Barat	113	0.4%
パプア	Papua	430	1.6%

（出所） The Indonesian Population Census 2020 - UN Statistics Division より作成

4. 賃金水準

JETRO の「2020 年度 アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」によると、職種別の月額給与は図表 24-6 の通りである。ジャカルタの場合、製造業の一般ワーカー（実務経験3年程度）の賃金（月額）は、約 619 万ルピア、中堅技術者で約 857 万ルピアであった。

一般ワーカーの月額賃金は、2010 年（168 万ルピア）からの 10 年で 3.6 倍となっており、物価を考慮しても大きな上昇である。同調査によればジャカルタの対前年昇給率は、2017 年度が 8.3%、2018 年度が 8.7%、2019 年度が 8.0%、2020 年度が 8.5%と 8%台が続いている。

図表 24-6 職種別に見た給与水準（2020 年：ジャカルタ、ルピア/月）

職種		月額 (1,000ルピア)	備考
製造業	ワーカー（一般工職）	6,197	実務経験3年程度の作業員の場合
	エンジニア（中堅技術者）	8,570	専門学校/大卒以上、実務経験5年程度のエンジニアの場合
	中間管理職（課長クラス）	18,559	大卒以上、実務経験10年程度のマネージャーの場合
非製造業	スタッフ（一般職）	7,466	実務経験3年程度の一般職の場合
	マネージャー（課長クラス）	17,898	大卒以上、実務経験10年程度のマネージャーの場合

（注） 正規雇用、基本給。

（出所）JETRO「2020 年度 アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」より抜粋して作成

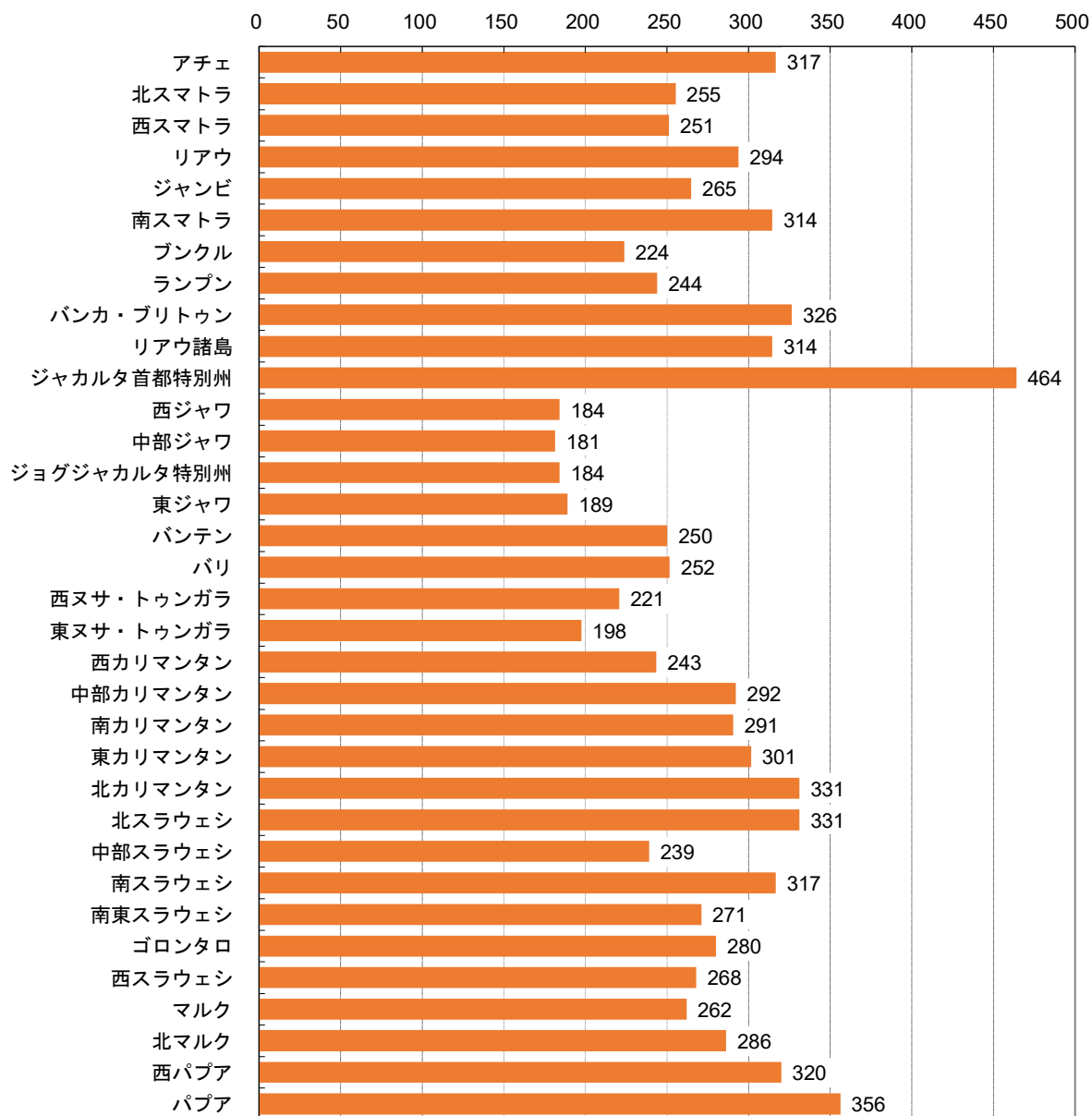
最低賃金は、州別の他、県単位で別途定められているケースもある。ジャカルタ首都特別州では 464 万ルピアと最も高く、続いてパプア州（356 万ルピア）であり、その後北スラウェシ州（331 万ルピア）と北カリマンタン州（331 万ルピア）が続く。

最低賃金が最も低い州は中部ジャワ州の 181 万ルピアであり、最も高いジャカルタの約 4 割の水準で、両者の格差は約 2.5 倍に上のぼる。最低賃金は毎年見直され、州知事によって決定される。

なお、日系企業が多い西ジャワ州の最低賃金は 184 万ルピアと低水準ながら、工業団地が集積するカラワン県、ブカシ県においては県・市単位での最低賃金が別途定められており、それぞれ 459 万ルピアと 449 万ルピアに設定されている点、留意が必要である¹⁹。

¹⁹ JETRO ビジネス短信 (<https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/12/a24207b275e280ad.html>)

図表 24-7 地域別の最低月額賃金（2022年）



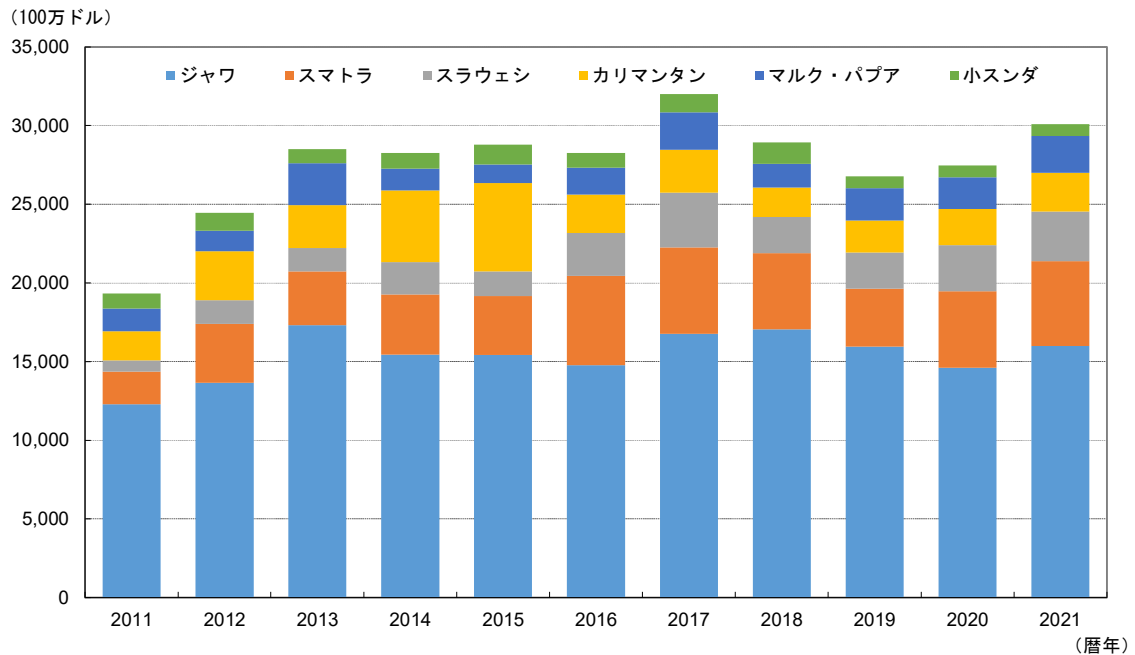
(万ルピア)

(出所) 各種報道資料より作成

5. 外国投資が多い地域

図表 24-8 は、BKPM による地域別の外国直接投資額を示したものである。これによると外国直接投資金額に関して、ジャワは依然として最大の投資先である。地域別の推移を見ると、2011 年から 2021 年の 10 年間で、特にスラウェシ (3.4 倍)、スマトラ (1.6 倍) への投資が増加している。

図表 24-8 主な地域ごとの外国直接投資金額推移



(出所) 投資調整庁資料 (Realization of Investment Based on Location) より作成

2021 年 10 月時点の日系企業拠点の所在分布では、ジャカルタ首都圏を含めたジャワ島西部が圧倒的に多い。図表 24-9 は大使館・総領事館の管轄地域別に集計しており、これに基づくと全 2,046 拠点のうち 1,789 はジャカルタ所在の日本大使館の管轄区域内にある。特に情報通信業 (96.1%) や金融業 (94.7%) といったサービス業は、特に同区域内に集積している。

他方、製造業 (1,046 拠点) では一定の地理的分散も見られる。最も多いのはジャカルタ所在の大使館 (911 拠点) だが、バタム島を擁する在メダン総領事館の管内には 29 拠点、東ジャワ州を中心とする在スラバヤ総領事館管内にも 98 拠点がある。この他、サービス業ではバリ島を中心とする在デンパサール総領事館管内に 28 拠点あり、同総領事館登録数の半分以上を占めている。

図表 24-9 地域別に見た日系進出企業の業種の内訳（2021年）

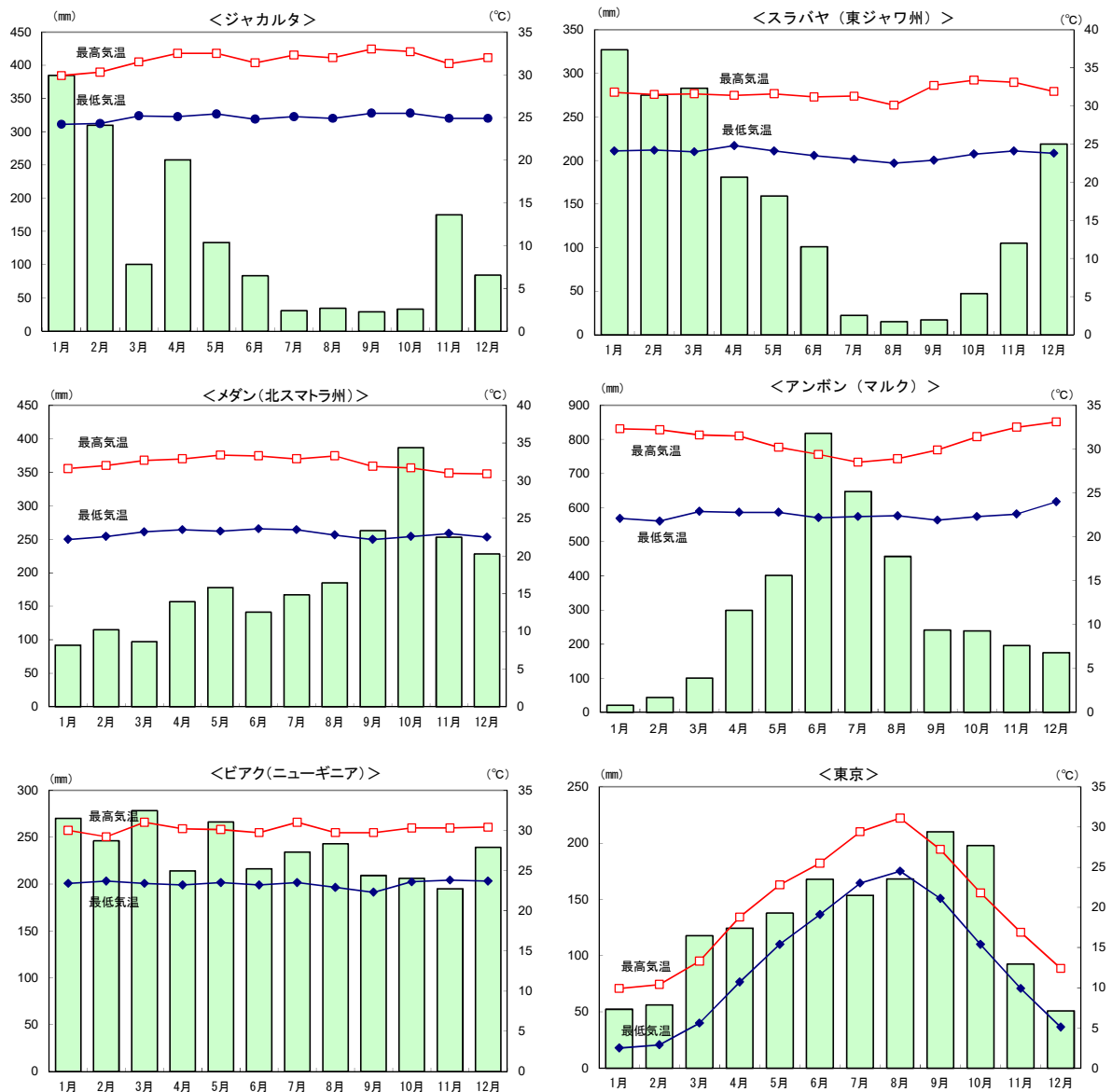
	全地域	在インドネシア 大使館 (ジャカルタ)	在スラバヤ 総領事館	在マカッサル 領事事務所	在デンパサール 総領事館	在メダン 総領事館
全業種	2,046	1,789	157	14	50	36
農業、林業	13	9	2	1	0	1
漁業	13	5	1	3	4	0
鉱業、採石業	13	12	1	0	0	0
建設業	121	107	8	2	2	2
製造業	1,046	911	98	6	2	29
電気・ガス・熱供給・水道業	18	17	0	0	0	1
情報通信業	51	49	0	0	2	0
運輸業、郵便業	109	99	10	0	0	0
卸売業・小売業	287	268	17	1	0	1
金融業・保険業	57	54	3	0	0	0
不動産業、物品賃貸業	45	42	1	0	2	0
学術研究、専門・技術サービス業	49	44	2	0	1	2
宿泊業、飲食サービス業	14	7	2	0	5	0
生活関連サービス業、娯楽業	10	9	0	0	1	0
教育、学習支援業	7	4	2	1	0	0
医療、福祉	10	9	0	0	1	0
サービス業（他に分類されないもの）	130	94	8	0	28	0
分類不能の産業	11	9	0	0	2	0
区分不明	42	40	2	0	0	0

（出所）外務省「海外進出日系企業拠点数調査（2021年調査結果）」より作成

6. 【参考】地域別気候

インドネシアは熱帯性気候で、年を通して非常に暑く雨が多いが、図表 24-10 の通り地域により違いがある。例えばジャカルタやスラバヤは、平均気温が 28℃前後で一定し、12～4 月ごろの雨量が多い。一方、北スマトラ州は標高が高く、1 年を通してやや涼しいなどの特徴がある。

図表 24-10 地域別の気温と降水量



(注) ジャカルタ以外のインドネシアの都市は 1961～1990 年の 30 年間の月平均、東京は 1981～2010 年の 30 年間の平均。ジャカルタは気温が 1994～1999 年の平均、降水量は 1930～1960 年の 31 年間の平均。

(出所) 世界気象機関 (World Meteorological Organization: WMO) データより作成